

注意! こんなに危ない! **自転車運転中の「ながらスマホ」**

自動車安全運転センターでは「ながらスマホ」の危険性を検証するための実験を実施しました

路地区間



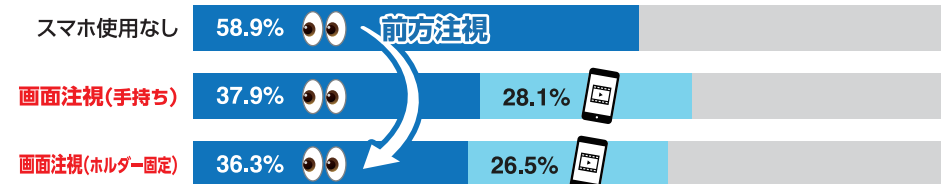
前方注視の割合が
 最大**37.2%**低下



視線計測は、株式会社ナックイマジテクノロジーのモバイル型アイマーカーレコーダー「EMR-10」を使用しています。

信号交差点区間

赤信号での不停止



前方注視の割合が
 最大**22.6%**低下

信号交差点の手前の区間では、前方注視の割合が最大で22.6%低下しました。その結果、**赤信号を無視して交差点を通行するケースが見られました**。また、赤信号では停止したものの、青信号になったことに気付くまでに平均で2秒程度の遅れが発生しています。

自転車通行帯区間



前方注視の割合が
 最大**45.2%**低下



歩行者への反応遅れ

前方注視の割合が最大で45.2%低下した結果、車両の陰から出てきた歩行者に気付くまで、0.4秒程度かかるケースが見られました。

通話しながらの走行も危険です!

通話しながらの走行では注意散漫となり、前方を見ているようでも対象を見ていないといった状況(いわゆる「上の空」の状態)も確認されています。



反応の遅れによる停止距離の増加

ブレーキをかけるまでの反応時間が0.4秒遅れた場合、停止距離が下のグラフのように長くなります。実際には、ブレーキをかけ始めるまでのタイムラグもあるため、停止距離はさらに長くなります。

